

大阪の福祉を知る

みんなの情報誌

ウェルおおさか

vol.162

2026年6月号
隔月発行(偶数月1日)

特集

社会福祉施設の社会貢献活動

～助け合う地域共生社会に向けて～

- 図書・資料閲覧室からのお知らせ
- 講座案内



社会福祉施設の社会貢献活動

～助け合う地域共生社会に向けて～



日中、道を歩くと、保育所から子どもの声が聞こえたり、高齢者や障がいのある人と介助者が一緒に歩いている姿を見かけたりします。地域住民の日常の暮らしは、高齢者・障がい者・子どもなどの対象者ごとに、そして生活に必要な機能ごとに整えられた社会福祉施設により支えられていると言っても良いでしょう。さまざまな特性のある人を支える社会福祉施設は、全国に約7万8千カ所あり、約297万人※が利用しています。

昨今、高齢化や人口減少が進み、地域・家庭・職場が支え合う関係性の希薄化や、社会経済の担い手の減少が明らかになる中で、社会福祉施設にも地域住民や産業などとのつながりを深めて地域社会全体を支えるという、さらなる役割が求められるようになりました。

※厚生労働省2024年10月1日の調査より

協働と助け合いで 地域社会を支える

社会福祉施設では、対象者や機能によって整備されている公的支援において、地域社会や家族の状況が時代とともに変化し、複合的な支援を必要とする人がいるなど、現状のままでは対応が困難なケースが浮き彫りとなっています。

このように“社会構造”や“人の暮らし”の変化をとらえた対策が求められる中で、2016年に社会福祉法が改正されました。これは、制度・分野ごとの“縦割り”や「支え手」「受け手」といった関係を超えて、地域の住民や多様な産業や施設がつながり、住民一人ひとりの生きがいのある暮らしと地域とともに創っていくという「地域共生社会」をめざすものです。そこで示された『一億総活躍プラン』には、「地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる地域コミュニティ

を育成し、福祉などの地域の公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる仕組みを構築する」と記されています。

その社会福祉法改正によって、社会福祉法人が社会貢献活動に取り組んでいくことが努力義務となりました。社会・経済活動の基盤である地域で、社会福祉施設や産業がつながって人々のニーズに応え、地域の活性化を実現するという“循環”を生み出すことで、地域住民の暮らしと地域社会の双方が支え合っていくというものです。

施設の信頼性向上と 地域活性化につながる

今回の特集では、その社会福祉法の改正から10年が経過したことを踏まえ、社会福祉施設が実際に取り組んでいる社会貢献活動について取材し、どういったものがあり、どのように取り組んでいるのかを紹介していきます。

規模の大小を問わず、社会福祉施設が社会貢献活動という開かれた取り組みを進めることで、地域社会にさまざまな効果や意識の向上をうながすことにつながり、社会福祉施設の利用者にも好影響をもたらすといわれています。

まず、地域に開かれた活動を進め、利用者が生き生きと取り組む姿が住民の目に見えることで、社会福祉施設の信頼向上につながります。また、地域の社会経済活動に関わることで、周辺住民の行動範囲や動線に変化が現れたり、地域の活性化にもつながるといった可能性も広がってきています。

実際に、地域社会に積極的に関わる取り組みを進めてきた社会福祉施設を運営する方々からは、「これまで知らなかった施設をPRする方法を若者から学ぶことができた」「取り組みを進めることで、利用者自身が積極的になった」といった声が挙がりました。



ボランティアや支援者が集まる 地域に開かれた「ごちゃませ食堂」

●社会福祉法人 四恩学園

1915年に宗教大学出身有志が、「大阪四恩報答会」を創設。以降、乳児院・児童養護施設・保育園・子育て支援施設・高齢者施設など、幅広い福祉施設を運営しています。110年以上の歴史の中で、さまざまなつながりが生まれ、地域のすべての人々が利用できる環境が整えられてきました。「多様性を認め合う」「地域と共に生きる」「0歳から100歳までが利用する複合施設」という目標を掲げ、行政や学校との地域連携、子どもや高齢者を中心としたあらゆる世代に向けて、さまざまな支援活動を行っています。



社会福祉法人 四恩学園
法人事務局長 西田 和人さん

子どもの貧困に着目し、 「子ども食堂」を企画

四恩学園が注力している社会貢献活動について、法人事務局長の西田さんに伺いました。

「30年ほど前のヘルパー制度ができる以前から、ボランティア約150名を集めて訪問活動や、法人の空いている部屋を地域住民に無料で開放するなど、公益性のある取組みを続けてきました」「約10年前に大阪市の調査で子どもの朝食欠食率が高く、1人で食べている子ども多いというアンケート結果が出ました。当園の児童養護施設にも経済的貧困を理由に入所してくる子どもが少なかつたことから、“子ども食堂”の必要性を強く感じたんです」と西田さん。

世代・属性は“ごちゃませ” 互いに交流できる場を

当時の四恩学園の改築計画に合わせる形で、「世代を超えたふれあいの中でつながりながら、互いに協働する場所にしたい」というコンセプトを基に、地域交流

ができるスペースを設計。福祉施設特有の門や壁を無くし、ガラス張りで気軽に日常的に集まることができる、明るいカフェ風の「あびんCOハウス」が完成しました。

「あびんCOハウス」は、世代や属性にこだわらず誰もが訪れることができる交流の場。福祉の専門職がそばにいて、地域の住民が生活の悩みや地域での困りごとを気軽に話せる場所になっています。

平日は、「コミュニティカフェあびんCO」として障がいのある人が運営。毎週火曜日には「モーニング子ども食堂」、毎月各1回それぞれ別の日には「ごちゃませ食堂」「ごちゃませ食堂AT NIGHT」「駄菓子屋しおん」「お母さん食堂」を開催。イベントごとに、大学生や地域のボランティアなどが積極的に運営の主体となって取組みが続けられています。

「複数の大学から大学生がボランティアとして参加してくれています。企画や運営までお任せしていたら、私たちには思いつかなかつたSNSを活用するアイデアにより発信力が格段に高まりました」「あびんCOハウスでの活動が地域にも認知され、駅前商店街のお惣菜屋

さんや、民間企業などから日常的に食糧の寄付をいただいております。無償で食事を提供する活動が継続できています」と笑顔で語る西田さん。

0歳から100歳といった幅広い年代をサポートしている四恩学園では、世代や属性にかかわらず誰もが協働できる「地域の結び目」として、民間企業や教育機関との連携、担い手の発掘、福祉施設による相談支援体制、地域講演会や福祉活動の研修といった取組みを進めています。

今日も活気あふれる、 地域住民の交流の場

昼と夜にそれぞれ月1回無料で食事を提供する「ごちゃませ食堂」。この日のメニューはカレーライス。地域の住民が子どもや友人を連れて集まります。最近では200食ほどになる日もあるとか。この日も子どもたちの「おかわり!」「私も!」という元気な声が響き渡っていました。



▲上の子が四恩学園の乳児院保育園から保育園に上がり、下の子が乳児院保育園に通っていて、お迎えのついでに利用しています。夕食を済ませて帰ることができて助かります

障がいのある人も児童も高齢者も、 ともに快適に暮らせる地域をめざして

●社会福祉法人 そうそうの杜

1995年に、大阪市城東区で利用者1名、スタッフ1名の無認可作業所「創奏」として創業。2001年に、社会福祉法人「そうそうの杜」として法人化。入所型ではなく“地域で生活すること”を重視し、本部以外に22箇所（2026年4月現在）の事業所を開設。児童・障がいのある人・高齢者、その家族の地域生活を支援するため、さまざまな形の事業が展開されています。「すべての人がその人らしく、生き生きと暮らせる地域と社会を創る」という理念のもと、実践を続けています。



社会福祉法人 そうそうの杜
理事長 荒川 輝男さん

い地域づくりを進めてきました。今では地域の人たちが利用者の顔を知ってくれるようになりました。地域の公園清掃では当番以外の日にも掃除を行う人や、レストランの厨房で調理をしたり、店舗の副店長を務める人もいます。「自身が役割を果たすことで、地域がより良い環境になり、人を喜ばせることができる実感生まれているのかもしれない」と話します。

2年前から、地域の商店街や幼稚園などを舞台に、地域活動協議会と商店会との協働で「SHIGINO.FES(しぎのフェス)」を開催しています。そうそうの杜は協力団体として名を連ね、企画段階から参加し、地域の方々と一緒に作っています。

眞頼さんは、「知的障がいの有無にかかわらず、その人たちのことを地域の方々に知ってもらうことで、私たちの取り組みである“地域福祉”を広める貴重な機会になっています」「フェスに参加することで『そうそうの杜』の認知度を高め、社会福祉法人としての役割を地域で果たしていきたい。地域の福祉に関することは、どれも担い手不足です。私たちが地域をサポートしないと成り立たなくなるのではという危機感もあります。民生委員を担うとか、法人としてさらに役割を求められるようになるなど、より信頼される社会福祉法人をめざしたい」と言葉に力を込めました。

こどもの日を間近に控えた4月末、「南鳴野商店街」には、たくさんの鯉のぼりが連なり、はためいていました。そうそうの杜の理事を務める眞頼さんによると「交流のある施設の利用者さんが生前に描いたもので、約180の鯉のぼりを買取り、そうそうの杜の利用者が飾り付けをしています」とのこと。「それほど規模の大きくない商店街ですが、商店街や周辺には利用者がさまざまな形で活動する場があります」と教えてくれました。

地道な活動が地域の 信頼につながる

栄養バランスに配慮したメニューが地域住民の女性を中心に人気のレストラン（写真①）、利用者さんが丹精込めて手作りする菓子工房、さまざまな特性のある人たちが交流する居場所など、周辺には関連施設やお店が増え続けています。管理者を務める小澤さんは、「荒川理事長が空き店舗などを開拓し、そこで何を行うかはスタッフが決めますが、お店のメニューなどは利用者が考え、作ってもらうなど、主役として取り組んでもらえるように進めています」と話します。

創業当時の思いを荒川さんは、「障がいのある人が地域で生きがいを持って暮らすためにはどうすれば良いかを考えていました。一般的に知的障がいのある人たちの地域生活のゴールがグループホームになっていることに疑問を感じて、せめて100人くらいの方々がこの地域で生活し、障がい福祉サービスの利用を含めた職場に行けるような仕組みをつくりたかった」と語ります。当初は、地元で長く活動する町内会などとの関わり方で苦労も重ねながら、地域活動協議会という組織が新たに生まれたことで予算が透明化され、次第に協力も得られるようになり、規模の拡大につながることができたといいます。

30年以上にわたる城東区での地道な活動が注目されるようになり、今では区の広報誌の地域への配布を、地域活動協議会との協働で取り組んでおり、地域の中で一定の役割を求められるようになりました。「毎月、約5000世帯への広報誌の配布を、月初めに3～5日間で利用者スタッフの手分けして行っています。配布と同時に、各地域の町会長の依頼を受けて30人ほどの市民の安否確認を行っています。この安否確認こそ社会福祉法人の役割だと考え、広めようと努力しているところです」と荒川さん。

地域を支える役割を しっかり担いたい

現状について荒川さんは、「そうそうの杜の利用者が店舗などで働いて地域住民と関わりを持つことで、障がいのある人への理解を広め、誰もが住みやす



福祉施設の社会貢献活動は、 メリットが大きい「四方よし」

ふくしと教育の実践研究所 SOLA 主宰
社会福祉士 新崎 国広さん

社会福祉士として、障がいがある子どもたちと21年にわたって関わった経験から、社会福祉施設が持つ課題の解決に向けて提案やアドバイスを行っている新崎さんに、社会福祉施設が社会貢献活動を行う意義などについて伺いました。

地域社会と福祉施設をつなぐ方法を考える

1974年に大阪府内の肢体不自由児施設に入職し、社会福祉士として障がいがある子どもたちと関わる中で、当時「子どもたちが施設内での生活にとどまっており、地域社会とつながっていない状況に疑問を感じていた」と話す新崎さん。

入所している子ども一人ひとりも地域住民であるべきだという考えから、施設利用者と地域の住民が交流できるような地域に開かれた福祉施設にするためにボランティア・コーディネートの方法を模索しました。例えば、青少年の短期体験型ボランティアを積極的に受け入れるなどの交流を通して相互理解を深めるといった「地域福祉共育(ともいっく)」の実践を重ねました。

2000年の社会福祉法改正で基礎構造改革が行われ、高齢者福祉施設に利用契約制度が導入されたことで、福祉

施設が“選ばれる施設”になる必要性が生まれます。新崎さんは、「この変化をきっかけに、福祉施設が地域に開かれ社会化することのメリットを伝えやすくなりました」と語ります。

2003年の大阪府地域福祉支援計画～おおさか福祉コミュニティ創生プラン～では、地域住民の生活課題を個別支援に加えて住民同士が支え合う仕組み(コミュニティソーシャルワーク)を整えるなど、施設の社会貢献事業への取り組みが早期から実施されていました。

コロナ禍で頓挫した福祉施設の社会化

2016年には、社会福祉法改正により社会福祉法人の社会貢献が努力義務となりました。これが福祉施設の社会化の推進力になるかと思われましたが、2020年以降のコロナ禍によりそれが中断するどころか後退してしまいます。新崎さんは、「高齢者や障がい者施設の利用者との交流は停止され、ボランティアの受け入れも制限されたことで、現在はマイナススペースからの再スタートのような状況です」と危機感を口にします。

施設の利用者がコロナ禍により一層社会と交わりにくくなっている状況は、障がい者の自立生活運動から生まれた「リスクを冒す権利」を侵害する可能性



があると指摘する新崎さん。

「選ばれる施設」になるための社会貢献活動

こういった状況を打開するには、「施設が利用者から選ばれる時代なのだから、利用者のクオリティオブライフ(QOL)を満たす福祉施設でなければ評価されない」という考え方に立つ施設運営者が増える必要があります。新崎さんは、QOLの「ライフ」を三つの側面で支えなければならないと強調。第一に「生命」の質として医療的なケア、第二に「生活」の質として日常的な支援、第三に「人生・生きがい」の質として社会参加を後押しすることを挙げました。

福祉施設利用者のQOLを支えるための仕組みを作るために、新崎さんが提唱しているのが、『なぎさの福祉コミュニティ概念』という考え方です。海と陸をつなぐ“なぎさ”のイメージで、施設と地域を壁で区切るのではなく、相互につながりながら理解し合うことで生き生きとしたコミュニティの創造をめざすというものです。

この“施設と地域が相互につながる”大きなきっかけになるのが、福祉施設の社会貢献活動でもあります。そこで新崎さんは、福祉施設が「四方よしの関係づくり」を意識して社会貢献活動を進めることで、施設自体の評価の高まりだけでなく地域住民と相互理解を深めることもできると解説します。

新崎さんは、「何よりも社会福祉施設が社会貢献活動を行うことで、地域の住民のひとりとして“社会に役立っている”という実感が得られ、自己実現ややりがいにつながる事が大きい」と語りました。

● 四方よしの関係づくり

1. 利用者よし=QOL向上と社会性の拡大
2. 施設よし=選ばれる施設の実現と偏見の解消
3. 住民よし=福祉サービスと相談機能が身近になる
4. ボランティアよし=活動者の生きがい・健康づくり

● 社会福祉施設職員の地域福祉実践講座 ●

地域を味方にする福祉実践

—協働の視点とスキルを学ぶ—

地域とつながる力。それが、これからの福祉をつくる鍵になります。社会福祉法の改正により、社会福祉法人・施設には「地域における公益的な取組」が求められる時代になりました。本講座では、利用者支援にとどまらず、地域で暮らす人々の自立生活を支えるための〈協働の視点〉と〈実践スキル〉を学びます。施設の専門性と地域の福祉力を掛け合わせ、地域と施設がともに成長する“四方よし(Win-Win)の関係”を創造しませんか。

“四方よし”とは、「利用者よし・施設よし・地域住民よし・ボランティアよしの関係づくり」

福祉職員の日々の実践を、地域福祉の視点から振り返りましょう

講師と参加者同士で意見交換やディスカッションを行いながら、実践をより豊かにする具体的な方法を学びます。施設職員にとっても、社協職員にとっても参加のモチベーションが上がると思います。社会福祉法人や福祉施設が持つ専門性や経験、社協が持つ地域の幅広いネットワーク等、それぞれの強みを生かし、連携・協働しながら地域づくりをすすめていくことを学び合いましょう。

講師 「ふくしと教育の実践研究所 SOLA」主宰 **新崎 国広**

日時 7月17日(金)、9月17日(木)、令和9年2月2日(火) いずれも10:00～17:00

場所 大阪市社会福祉研修・情報センター 4階 会議室

対象 ● 大阪市内の福祉施設・事業所等に勤務し地域福祉実践への興味や意欲がある方
● 市区社会福祉協議会職員

定員 9人(申込多数の場合は抽選) **受講料** 9,000円

申込み ホームページから申込み(申込み締切は6月22日(月)まで) ……………▶



日程	内容
1日目 7月17日(金) 10:00～17:00	★多職種連携と地域協働の今日的意義 ★施設の社会貢献 ★施設職員の人材育成 ★アクションプランの作成のすすめ方 等
アクションプランの作成	
2日目 9月17日(木) 10:00～17:00	★個々に作成したアクションプランのブラッシュアップとスーパービジョン
自己職場での実践	
3日目 2月 2日(火) 10:00～17:00	★アクションプランの実践報告とスーパービジョン

大阪市立十三市民病院 **申込不要** **無料** **マスク着用**

いきいき健康セミナー

クリアな視界で いきいき生活

講師 視能訓練士 ^{かしわらひとみ} 柏原 仁美さん
視能訓練士 ^{まつもと} 松本 あかねさん

日時 7月21日(火) 14:00～15:00

場所 十三市民病院 9階 すかいらーム

問合せ 大阪市立十三市民病院 地域医療連携室
〒532-0034 大阪市淀川区野中北2-12-27 ☎06-6150-8000(代表)



福祉・介護の現場で「アシスタントワーカー」活躍中!

アシスタントワーカーとは?

介護施設等において掃除や食事の片付け、洗濯、物品の補充等、直接介助に携わらない業務を担当する“介護職場の人材”です。

令和7年度取組み施設アンケート調査結果から

令和7年度に、約1年間にわたり取組みに参加された3施設に、事業に参加されたことによる効果や気づき、感想などをお聞きしました。一部抜粋しご紹介します。

取組みによる効果 (プロジェクトチームメンバーへのアンケート結果より抜粋)	効果あり
●業務切り分けやマニュアル作成等の取組みを通じて得られた効果	
・業務内容や手順の見直しにつながった	100%
・職員が業務内容や手順などの課題に気づく機会になった	100%
●アシスタントワーカー導入後の効果	
・マニュアルの作成(見直し)により、業務の手順等が明確になった	100%
・職員が業務に余裕をもって取り組めるようになった	83.3%
・見守りの目が増え、安全性が高まった	83.3%

*取組み施設からの声

- 福祉・介護職場で働く人材のすそ野の拡大につながった。
- 集合研修では、アドバイザーから現場経験に基づいた具体的な事例や成功・失敗体験をお話しいただき参考になった。
- 個別コンサルでは、各施設に沿った進め方の助言をいただき、安心してプロジェクトを進めることができた。
- 課題が表面化できて良かった。
- マニュアル化することの大切さ、それを職員全体に浸透させることの大変さを知ることができて良かった。

令和8年度 アシスタントワーカー導入 取組み施設のご紹介

今年度も、新たに3施設がアシスタントワーカー導入の取組みに参加。現場の声を取り入れながら、よりよい介護の職場づくりを進めていきます。利用者の暮らしを支え、職員の負担を軽減し、誰もが働きやすい介護現場へ。アシスタントワーカーと導入に取り組む職員の皆さんの活躍にご期待ください。

社会福祉法人 枚方療育園
ビアンエトール恭愛

障害者支援施設 第一博愛

〒557-0063
大阪市西成区
南津守1-4-7
☎06-6656-7001



社会福祉法人 枚方療育園
ビアンエトール恭愛

特別養護老人ホーム 山愛

〒557-0063
大阪市西成区
南津守1-4-7
☎06-6656-7001



株式会社ニッケ・ケアサービス
認知症対応型共同生活介護(グループホーム)

ニッケととて本町

〒540-0038
大阪市中央区
内淡路町3-1-18
☎06-6809-7925



講座案内



市民向け講座

大阪市内在住、在勤、在学の方

講座名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
介護実習講座 ステップアップ(応用) テーマ別コース	7月 4日(土) 8日(水) 18日(土) 22日(水) 29日(水) 13:00~16:00	介護実習講座 入門コース修了者	一般社団法人 幸せ介護創造 ファクトリー 代表理事 高山 彰彦 氏	4日 移動①(移乗) 8日 移動②(ベッド上の介助) 18日 移動③(車いす操作・歩行) 22日 食事介助 29日 排泄・着脱介助	定員:各テーマ20人(先着順) 受講料:各テーマ100円 (資料代)

福祉従事者向け研修

申込み多数の場合は抽選です。締め切り後に、事業所あてに決定通知を送付します。

研修名	日時	受講対象者	講師	内容	その他
福祉人材受入・ 定着支援研修	8月25日(火) 14:00~16:00	外国人を雇用している、または雇用に興味のある大阪市内の福祉施設・事業所の職員	一般社団法人福祉の やさしい日本語協会 代表理事 臨床福祉学博士 堀 清和	福祉・介護の現場で一緒に働く外国人職員とのコミュニケーション手段の1つとして、「やさしい日本語」を使用し、日本人職員も外国人職員も安心して働けるような職場環境作りについて学びます。	定員:20人(先着順) 締切:7月27日(月) 受講料:無料
包括的な相談支援・ コミュニティソーシャル ワーク実践講座	7月 9日(木) 8月 7日(金) 9月 8日(火) 10月13日(火) 11月20日(金) 13:30~16:30	大阪市内24区社会福祉協議会、地域包括支援センター、障がい者基幹相談支援センター、福祉関係事業所等の福祉職員	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 社会福祉学科 教授 松端 克文	地域を基盤としたソーシャルワークの実践をめざし、「暮らしをまもる」個別支援機能と”つながりをつくる”地域支援機能を連携させた地域福祉推進の理念と方法について学びます。	定員:36人 締切:6月15日(月) 受講料:7,500円
福祉職員キャリアパス 対応生涯研修課程 (管理職員コース)	7月28日(火) 8月 4日(火) 9:30~17:00	大阪市内の福祉施設・事業所等に勤務する管理職員、もしくは将来その役割を担うと想定される職員	ふくしと教育の実践 研究所 SOLA 主宰 新崎 国広 関西福祉科学大学 関西女子短期大学 学長 津田 耕一	管理職として求められる役割やリーダーシップを醸成し、キャリアアップの方向を学びます。	定員:20人 締切:6月8日(月) 受講料:6,000円+ テキスト代:1,000円
社会福祉の基本と対人 援助(基礎編・実践編)	【基礎編】 8月 4日(火) 8月27日(木) 10:00~16:30 【実践編】 9月29日(火) 10:00~16:30	大阪市内の福祉施設・事業所に勤務する職員	同志社大学社会学部 教授 小山 隆	【基礎編】社会福祉従事者に求められる価値観や倫理観、それらに基づく知識や技術の基本を講義と演習で学びます。 【実践編】基礎編での学びをもとに、各自が持ち寄った事例についてさまざまな職種の人と話し合い、講義と演習を通じて自身の実践を振り返ります。	定員:各30人 締切:6月25日(木) 受講料:9,000円 ※基礎編のみの受講 の場合は6,000円
財務管理研修 (入門編・基礎編)	【入門編】 8月28日(金) 10:00~17:00 【基礎編】 9月15日(火) 10:00~17:00	【入門編】大阪市内の福祉施設・事業所の経理実務担当者で会計を初めて学ばれる方 【基礎編】大阪市内の社会福祉法人の財務担当者	シェア税理士法人 社員税理士 林 竜弘	【入門編】貸借対照表の見方、資金収支計算と支払資金について、事業活動計算と損益計算の考え方等 【基礎編】財務分析の基礎、事業計画と予算等	定員:各30人 締切:7月8日(水) 受講料: (入門編)3,000円+ テキスト代700円 (基礎編)3,000円
介護職員研修 「利用者に寄り添う 看取りと尊厳とは」	7月3日(金) 13:30~17:00	大阪市内の福祉関係施設・事業所で介護に従事する職員	浄土宗願生寺 住職 訪問看護ステーション さっとさんが願生寺 共同代表・チャブレン 大河内 大博	介護現場における人と向き合うことの大切さ、死にゆく利用者の思いに寄り添うことの重要性を、講義とワークショップを通じて学びます。	定員:36人 締切:6月10日(水) 受講料:1,500円
リスクマネジメント研修 (管理職対象-障がい分野)	7月23日(木) 13:30~16:40	大阪市内の主に障がい分野の福祉関係施設・事業所に勤務する管理職員	社会福祉法人豊悠福祉 社会 障がい事業経営 アドバイザー 大阪大谷大学 人間 社会学部 非常勤講師 油谷 佳典	主に障がい関係施設や事業所等の管理職に求められる視点を再確認するとともに、苦情解決を通して、良い支援とは何かを考え、職場環境がリスクマネジメントの要となることを学びます。	定員:60人 締切:6月30日(火) 受講料:1,500円
求人力・広報力 向上研修	7月29日(水) 13:30~16:30	大阪市内の福祉関係施設・事業所に勤務する職員、リクルーター(兼務者也可)、採用担当職員等	大阪総合保育大学 短期大学部 現代生活学科 教授 前田 崇博	採用実績をあげている事例を参考に、学生等若い世代に焦点をあてた求人方法、採用の取組み、早期離職、チームビルディング等について学びます。勤務する施設・事業所の強みや弱みを分析し、学生等若い世代の求職者を入職に繋げる手法を学びながら、求人力・広報力の向上をめざします。	定員:30人 締切:7月8日(水) 受講料:無料

★日程及び締切日は、主催者の都合で変更する場合があります。

申込み・ 問合せ先

研修の申込み方法▶当センターのホームページからお申込みください

※市民向け講座のみ、電話での申込みも受け付けます

大阪市社会福祉研修・情報センター 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

☎06-4392-8201 ☎06-4392-8272

🌐<https://www.wel-osaka.com>

✉kensyu@shakyo-osaka.jp





図書・資料閲覧室からのお知らせ

図書・DVD新着情報



図書紹介

マンガで学ぶ認知症の人への不適切ケア、身体拘束、虐待の防ぎ方「自分」と「チーム」を整える現場改善のポイント

高口 光子 著 中央法規出版
2026年

介護現場で問題となる「不適切ケア・身体拘束・虐待」を豊富な実例で解説。起こりやすい場面や背景、職員が陥りがちな判断のズレを整理し、マンガとイラストでわかりやすく示す。



ごみ屋敷に住む人の心理と支援がわかる本
セルフ・ネグレクト、孤立、ひきこもり、支援拒否に寄り添うアプローチ

岸 恵美子 編著 中央法規出版
2026年

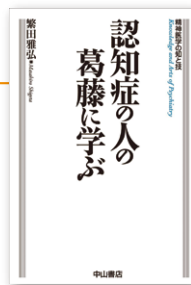
制度の狭間で関わりが難しく、取組みの模索が続く「ごみ屋敷」問題。支援に必要な疾患等の知識や、ごみ屋敷に住む人や近隣住民との具体的な関わり方を紹介、解決に導くヒントをまとめる。



認知症の人の葛藤に学ぶ
(精神医学の知と技)

繁田 雅弘 著 中山書店 2026年

「認知症の精神療法」について、その意義、留意点、実践方法を語る。精神療法を用いた、著者と認知症の人・家族の対話は22例を収載。認知症の人・家族が抱く想い・葛藤と、その人々を支え、本人らしくあってほしいと願う全ての人にお勧めの一冊。



DVD紹介

オレンジ・ランプ

アイ・ピー・アイ 100分 2025年

39歳で若年性認知症と診断された丹野智文さんの実話をもとに、夫婦の希望と再生を描いたドラマ。若年性アルツハイマー型認知症と診断された晃一は、妻と2人の娘を抱え、不安に押し潰されそうになる厳しい現実と直面していたが、ある出会いをきっかけに真央と晃一の意識に変化が訪れる。



「気になる子」への支援アプローチ4
アンガーマネージメント

アローウィン 27分 2024年

アンガーマネージメントの11個のキーワード「傾聴」「共感」「気づき」「明確化」「直面化」「私メッセージ」「承認欲求」「SST」「見通し」「セルフトーク」「ストレスマネジメント」について「不適切な事例」と「適切な対応事例」の2つのドラマを通して説明する。



あなたのおみとり

BBB 95分 2025年

末期ガンで入退院を繰り返していた91歳の父の「家に帰りたい」という言葉を受け、86歳の母は自宅での看取りを決意。介護ベッドを置き、ヘルパーや訪問看護師が入り出する生活が始まる。40日あまりにわたる両親の最後の日々を映し出す。



募集!! あなたの周りに眠っている古本はありませんか?

8月に開催する「リサイクルブックフェア」の古本を募集しています!

- 本、絵本、マンガなどジャンルは問いません。何冊でもOK!
- 読めないほど傷んだ本の寄贈はご遠慮ください。
- 寄贈していただいた本は返却できません。
- 募集締切/8月20日(木)
- 受付場所/大阪市社会福祉研修・情報センター 1階 事務所/2階 図書室



リサイクルブックフェア

「リサイクルブックコーナー」の古本を無料で持ち帰りいただけます!

- 開催期間/8月21日(金) 9:00 ~ 27日(木) 21:00

毎週金曜日の開館時間を午後7時まで延長しています。ぜひご利用ください!



大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書・DVD・雑誌などを、無料で貸出しております。(認知症、介護技術、手話のDVDや、福祉の関係の雑誌などが充実しています。)



開室時間/月曜日～木曜日・土曜日 9:30～17:00
金曜日 9:30～19:00
休室日/日曜日・祝日(土曜日は除く)・年末年始
問合せ先/☎06-4392-8233



新着情報はこちら▲



6月は
食育月間です

かしこく食べよう! ゲンキをつくろう!

「よく噛んで食べよう」



食べ物を噛むためには、十分な口腔(こうくう)機能の発達、維持が不可欠です。よく噛んで、味わって食べましょう。

よく噛むことは、食べ物を味わって食べることに加え、全身を活性化させるという重要な役割を持ちます。

できることから始めよう

- 食事はゆっくり時間をかける。
- ひと口の量を少なくする。
- 素材は、大きめに切る。
- ゆで野菜は「ゆで時間」を少なくし、ゆですぎずしない。
- 歯ごたえのあるメニューを取り入れる。

やさしいTABE店をご存じですか

大阪市が実施する野菜をたくさん食べることが出来る飲食店等を対象とした登録制度です。自然に野菜をたくさん食べられる環境づくりの一環として、事業を進めています。

詳しくはこちらをご覧ください



大阪市ホームページ
よく噛んで食べよう



やさしいTABE店
ホームページ



やさしいTABE店
Instagram



あなたのお口は健口(けんこう)ですか?

歯周病は、気付かないうちに徐々に進行していくことから「沈黙の病気」とも言われており、成人期以降に歯を失う一番の原因になっています。また歯周病は、肥満、糖尿病、心疾患、脳梗塞など、全身の健康と関連があることが分かっています。

自分の歯でおいしく食べられることは人生の楽しみのひとつです。歯周病にならないようにするために、定期的に歯周病検診を受けましょう。

大阪市で受けることができる歯周病検診と相談

令和8年度歯周病検診(問診・口腔内検査)

※エックス線撮影やむし歯治療、歯石の除去などは含まれません。

対象 令和8年4月1日～令和9年3月31日の間に

20・25・30・35・40・45・50・55・60・65・70歳になられる市民の方

期間 令和8年4月1日～令和9年3月31日

費用 無料

場所 市内取扱歯科医療機関(要予約)

各区保健福祉センターの電話番号は「4ケタ△△△△-9882」です

北区	6313	浪速区	6647	阿倍野区	6622
中央区	6267	東成区	6977	平野区	4302
天王寺区	6774	鶴見区	6915	此花区	6466
東淀川区	4809	東住吉区	4399	大正区	4394
城東区	6930	福島区	6464	淀川区	6308
住吉区	6694	港区	6576	旭区	6957
都島区	6882	西淀川区	6478	住之江区	6682
西区	6532	生野区	6715	西成区	6659

取扱医療機関▼



その他にも検診を実施しています!

- 胃がん検診・大腸がん検診・肺がん検診・子宮頸がん検診・乳がん検診・前立腺がん検診・骨粗しょう症検診

詳細はこちら▶



大阪市健康局健康づくり課(健康づくりグループ) ☎06-6208-9963

今月の自助具

カバー付きスプーン(3Dプリント自助具)

主な適応疾患・対象者 ▶ 自分で食事ができない人に介助者がスープを飲ませる為の補助具

《機能・特徴》

- スプーンにカバーがついているので、スープをこぼさず口に運べる
- カレースプーンの大きさで、一口サイズ
- 六角柱のグリップで、操作しやすい

《使い方》

- ベッドサイド等、食事をする人の傍で、碗からスープを救って、口元まで運ぶ



資料提供・問合せ ▶ 特定非営利活動法人 自助具の部屋

☎06-4981-8492 (月・水・金 10:00～15:00)

NPO自助具の部屋ホームページ▶



健康生活

応援グッズ

手すり

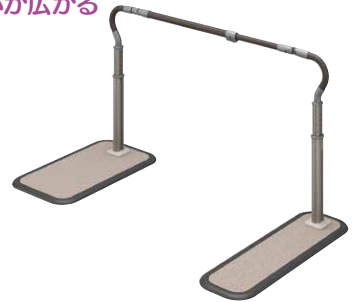
さまざまな形状のトイレに対応できるてすり



◆洋式トイレ用 ベストサポート手すり

便器の幅に合わせてフレーム調整ができる洋式トイレ用手すり。ベルトでしっかり固定でき、左右されず安定設置が可能。安心設計で立ち座りをサポートします。

置き場所を選ばない対応力で安心が広がる



◆歩行サポート手すり スムーディ

設置場所を選ばず使える歩行サポート手すり。外出時の動作や移動をしっかり支援。さまざまな場所に対応できるので行動範囲が広がり、毎日の外出がより快適に楽しめます。

軽量の置き型手すり



◆あがりかまち用置き型手すり フィットワン

玄関の上がりかまちでの立ち座りや昇降をしっかりサポート。コンパクトで軽量な置き型手すり。移動や設置も簡単。工事不要で手軽に導入でき、安定感があり安心して使用できます。

問合せ

公益社団法人関西シルバーサービス協会
介護情報・研修センター福祉用具展示場

〒542-0012 大阪市中央区谷町7-4-15

大阪府社会福祉会館1階

☎06-6763-1480

🌐https://kansil.jp

同心会社会福祉研究「研究奨励賞」等を授与

同心会(会長 白澤政和:国際医療福祉大学 大学院 医療福祉学研究科 教授)では、大阪市内で社会福祉に関する活動を行っている団体、グループ及び個人が自発的に研究や実践活動を行い、その成果をまとめた「大阪市社会福祉研究第48号」の掲載論文から、特にその内容が優秀と認められたものに対して、3月26日(木)、大阪市社会福祉研修・情報センターにおいて「研究奨励賞」「研究努力賞」「会長賞」を授与しました。



第48号 受賞論文

研究奨励賞

◆医療型障がい児入所施設における垂直避難訓練報告

大島の分類に基づく避難時間の傾向と避難計画への示唆 堀田 祥司

研究努力賞

◆「グリ下」から考察する若者支援の現在地.....

柴田 大樹

◆地域・福祉/介護事業所協働による住民移動支援活動

「スマイル号」運行の試み(経過と課題、展望)

.....西川 雅也・山下 保一・和田 勅子・山本 淳子・南 佑実・岩畔 勇人・浦 敏久・松井 修一

会長賞

◆見守られる関係からつながり合う関係へ

ー東淀川区ライフステーション事業における登録者交流の取り組みー 高橋 加容

どんな広告を
作ればいいのか
悩む...

何年も使っている
冊子を
新しくしたい!

内製している
チラシの評判が
よくない...

クリエイティブ関連のお悩み解決は
「ウェルおおさか」も制作している
アド・エモンにぜひお任せください!!

チラシ	パンフレット	小冊子
カタログ	会社案内	各種PRツール
取材・撮影	印刷	アニメーション動画

and more...

納得のご予算でお客様のイメージを
トータルでカタチにします!!

TOTAL CREATION

AD-EMON

株式会社 アド・エモン

〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目北1-23 丸丹ビル306号
TEL 06-6358-1010 FAX 06-6358-1011 info@ad-emon.com

http://www.ad-emon.com

大阪市内の福祉関係施設・事業所の皆様へ

研修開催案内の メール配信登録 をお願いします!

メール配信について

これまでFAXでお送りしていた、各研修の開催案内を7月以降はメールで配信する予定です。順次、FAXでのご案内は終了いたしますので、お早めにメール配信のご登録をお願いします。

▼スマホからの登録

上のQRを読み取るか
【<https://x.gd/Vn-Vpt>】より登録してください。

▼パソコンからの登録

- ①センターのホームページを開く
※ウェルおおさかまたは
<https://wel-osaka.com>で検索
- ②トップページのバナーをクリックして登録してください

↓HPはこちら

〈お問合せ〉 大阪市社会福祉研修・情報センター 企画研修担当
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20

[広告]

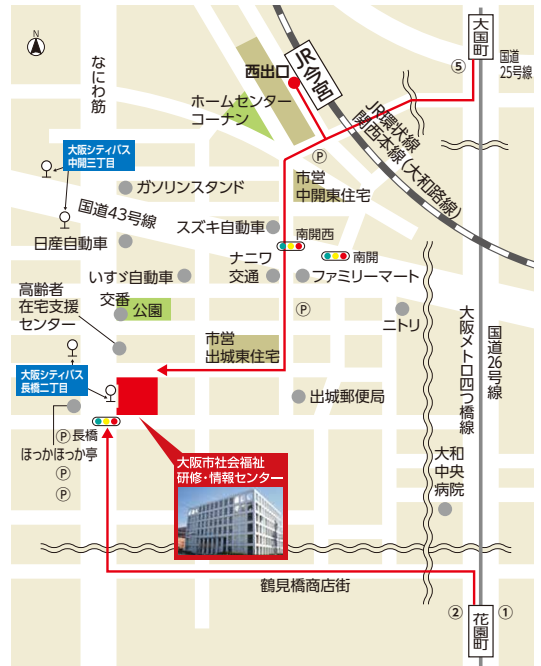
CENTER INFORMATION 大阪市社会福祉研修・情報センターのご案内

開館時間 / 9:00～21:00まで(土・日曜日は9:00～17:00まで)

図書・資料閲覧室は9:30～17:00まで(月～土曜日) ※毎週金曜日19:00まで

休館日 / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(12月29日～翌1月3日)

項目	直通電話番号	お問合せ時間
会議室など利用の問合せ	06-4392-8200	9:00～21:00(土・日曜日は17:00まで) (会議室の申込・お支払いは9:30～17:00)
研修関係の問合せ	06-4392-8201	9:00～17:00
図書・資料閲覧室の問合せ	06-4392-8233	9:00～17:00



貸室ご利用の皆様へ

貸室予約がオンラインで24時間パソコンやスマートフォンから可能となりました。

ホームページの【貸室のご案内】よりログインし、ご予約ください。

初めてご利用される方は、事前にお問合せください。

[ウェルおおさか](#) [検索](#)

利用申込の受付は6か月前からです。

利用日の6か月前(6か月前の同じ日)から、インターネットでの予約、または電話や窓口でご確認のうえ所定の用紙でお申込みください。
電話や窓口での受付は、9:30から17:00まで。

☎06-4392-8200

☎06-4392-8206

※インターネットでの予約可能な期間は、利用日の6か月前から利用日の1週間前までです。
FAXでの申込み可能な期間は、利用日の6か月前の9:30～利用日の3日前までです。
詳しくは、ホームページの【貸室のご案内】をご覧ください。

会議室等の使用料

利用できる貸室および料金は、次のとおりです。

ご予約は利用日の6か月前からです。

(単位:円)

室区分	利用人員のめやす	時間区分	午前	午後	夜間	全日
			9:30～12:30	13:00～17:00	18:00～21:00	9:30～21:00
4階	会議室	99	3,800	5,100	3,800	11,400
	会議室 東	45	1,900	2,600	1,900	5,800
	会議室 西	54	2,900	3,800	2,900	8,600
	介護実習室	36	5,700	7,600	5,700	17,100
5階	演習室	18	1,000	1,300	1,000	3,000
	大会議室	144	5,800	7,700	5,800	17,400

交通

ご来所には【大阪シティバス】【JR】【大阪メトロ】をご利用ください

大阪シティバス

【長橋二丁目】バス停すぐ
52系統(なんば～あべの橋)

【中開三丁目】バス停徒歩5分
80系統(鶴町四丁目～あべの橋)

JR大阪環状線・大和路線

【今宮】駅から徒歩約10分

大阪メトロ・四つ橋線・御堂筋線

【花園町】駅(①・②出口)から徒歩約15分

【大国町】駅(⑤出口)から徒歩約15分

所在地 / 〒557-0024

大阪市西成区出城2丁目5番20号

設置主体 / 大阪市

運営主体 / (指定管理者)
社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会

電話 / ☎06-4392-8200(代表)

ファックス / ☎06-4392-8206

URL / <https://www.wel-osaka.com>

Facebookもチェック



X(旧Twitter)もチェック



「ウェルおおさか」に
広告を掲載しませんか

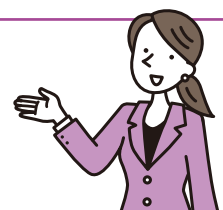
詳しくはお問合せください…

大阪市社会福祉研修・情報センター

☎06-4392-8201

☎06-4392-8272

✉kensyu@shakyo-osaka.jp



人権啓発キャッチコピー

【テーマ】高齢者をめぐる人権

優しさは めぐりめぐって かえされる

坂東 千和さん(令和7年度「人権に関する作品募集事業」キャッチコピー 高校生の部 大阪市長賞)